

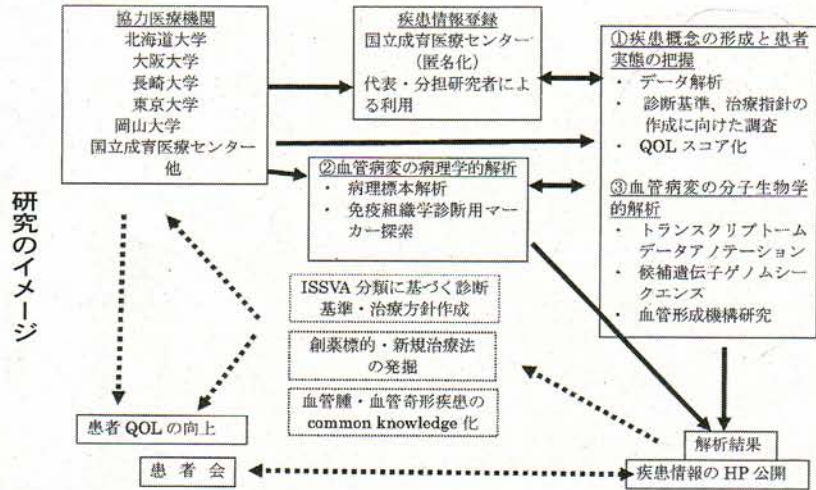
血管腫形 奇

ガイドライン作成へ

斗南・佐々木氏が研究代表

近く症例登録開始

中央区・KRR札幌医療センター斗南病院の佐々木了血管腫・血管奇形センター長を代表者とする、「難治性血管腫・血管奇形についての調査研究」が二十一年度厚生労働科学研究費補助金事業で採択された。近く全国規模では初となる症例登録を臨床医に依頼し患者実態のデータベースを構築するとともに、基礎研究も同時進行しながら診断・治療ガイドライン作成を目指す。



成長による自然消失が期待できる血管腫と、次に血管が拡張して外見上の問題に加え、疼痛や発熱などを伴う血管奇形。ともに、まれな疾患で精通する医師が少なく、また症例経験も不十分なため、診断方法が確立されておらず、治療手技選択も医師によって偏りがあるのが現状だ。本研究では両疾患を扱う同病院を含めた全国二十施設以上の研究分担者・協力者が症例登録に参加。国立成育医療センターに蓄積される臨床データほか、患部組織の病理学的解析、トランスクリプトーム解析、血管病変の分子生物学的解析、QOLなどを問う患者ア

ンケートなどの結果を踏まえて、ISSVA（国際血管腫・血管奇形学）分類に基づく診断基準・治療指針を三年間で仕上げ。ファイビリティスタディによる採択のため、本年度は診断基準づくりを最優先とする。基礎研究では血管腫・血管奇形のバイオマーカーや関連遺伝子の探索、発現パターン解析などにも取り組む。

また佐々木氏は混合型「病指定への後押しになれる血管奇形の難病指定を」と期待している。